于他枝、故俚語、稱二人之群集相並如二目白之推一、或好集二菓樹一、故捕之者以二熟柿一懸二于擡邊一爲二媒一、其味不佳、

〔大和本草十五小鳥〕繡眼兒　常熟縣志曰、最小而巧、今案目白目ブチ縫ルガゴトシ、故繡眼ト名ヅク、其羽色青褐色、青バトノ色ニ似タリ、是モワタリ鳥也、群ヲナス、枝上ニテ同類ト押合フ、

〔和漢三才圖會四十三林禽〕眼白鳥　正字未詳

按眼白鳥小禽也、○中略毎好二柿一、故捕之以二囮一、或用二熟柿一安二于擡傍一、畜之以二柿研餌沙糖一、其鳴聲曰二豆伊豆伊一、囀如曰二比伊豆留一、其雌者稍小、胸白不帶二柿色一、最不能囀也、

〔喚子鳥上〕めじろ　ゑがい　生ゑ四分、あをみ入、粉壹匁

大きさ鶯によほどちいさく、毛色もへぎ、むねき色、はら白し、さへづり善惡あり、よきはひばりのごとく大おんに、おもしろき者なり、大ていはくせりなり、くせりとは小ごゑの義なり、此鳥ゑやうつよく飼よきものにて、ゑかも多き鳥なり、又山からのごとく中がゑりするもあり、秋のすゑ多く出る、

〔百千鳥上〕朝鮮目白。　餌がい、ハヤ四分ゑ、青味入、

大さ十姉まつに似て、諸事和の目白に似て奇麗なり、總身の青みすぐれて色よし、咽の黄色も格別見事なり、腹白く脇はらにかき色の毛有、口嘴薄あひいろなり、さへづり小音なるおゝし、巣もなす物なり、唐鳥にや、または島鳥にや、明和三丙戌年より、予○泉花堂三蝶が庭籠にて、年々子をなしたり、巣草は苧を能もみて四五寸位に切、是を引、蜘のすを取りて入置べし、苧へ蜘のすを付て巣を作る也、野老の毛、ゑゆゐろの毛、尤入おくべし、玉子十三日にてかへる、蜘を飼ふべし、

〔武江產物志〕山鳥類　繡眼兒白山邊

〔和爾雅六禽鳥〕畫眉鳥又作二鸝鶹一

〔物類稱呼二動物〕畫眉鳥ほうじろ　遠州にて赤ちゝんと云

頰白